

柏原市遺跡群発掘調査概報

2001年度

2002年3月

柏原市教育委員会

例　　言

1. 本書は柏原市教育委員会が2001年度に原因者負担事業として実施した平尾山古墳群2001-1次調査の発掘調査概報である。
2. 調査は社会教育課石田成年が担当し、新田太加茂、分才隆司、堀定夫、阪口文子が参加した。
3. 本書図中の方位は磁北、標高はT.P.である。
4. 調査に際し、大阪府八尾土木事務所建設課道路建設グループ、馬場建設株式会社、安田総業株式会社からは多大な協力を賜った。また京都大学大学院生橋本英将氏からは有益な教示を賜った。記して謝意を表します。

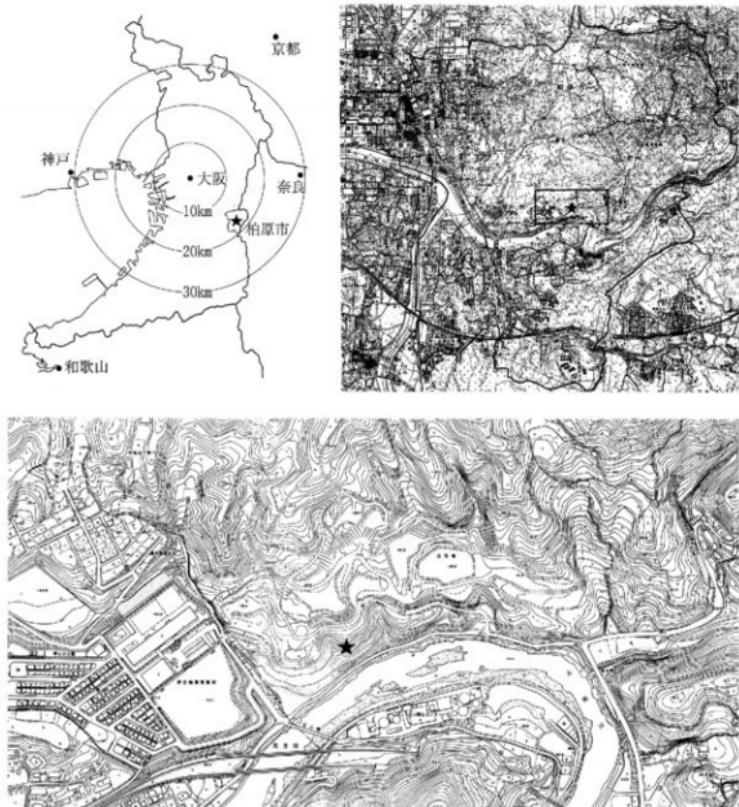


図1　調査地位置図

平尾山古墳群2001-1次調査

- ・調査対象地 柏原市大字青谷1953-1、1953-22
- ・調査期日 2001年9月4日～9月19日
- ・対象面積 4,800m²

1. 調査に至る経過

当該調査は一般府道本堂高井田線道路拡幅に伴う発掘調査である。狭義の平尾山千塚の東南端に位置し、眼下に大和川を臨む南向きの急な斜面地である。標高は約55mである。

2001年6月20日に大阪府八尾土木事務所から文化財保護法に基づく通知があり、依頼を受けて7月3日に工事対象域内の踏査を実施した。その結果、南に開口する横穴式石室1基と工事対象域外の縁辺部において古墳と思われる石材の露出を認めた。当該工事は道路拡幅に伴い現地盤を安定勾配に掘削し法面整形するものであるため、対象地内での古墳の保存は不可能であるとの判断から開口する1基について発掘調査を実施することとした。現地での調査費用は大阪府八尾土木事務所の負担とし、9月4日に発掘調査に着手した。

本墳は大阪府教育委員会が1974年に実施した分布調査（『平尾山古墳群分布調査概要』大阪府文化財調査概要1974-11 大阪府教育委員会 1975年3月）によるところの「平尾山古墳群平尾山第58支群10号墳」である。



写真1 近景(西から)



写真2 58-10号墳開口部



写真3 58-10号墳表土除去後(南から)

2. 平尾山第58支群10号墳

墳丘は着手時において現認できるような高まりではなく、当初から天井石は露頭していた。石材の構築に際しては45~80cmの深さで地山を掘り穿ち、石材を設置している。その平面規模は南北長380cm、東西幅160cmを測る。

石室は南に開口する無袖の横穴式石室である。主軸はN-15°-E.を示す。規模は石室現存長295cm、幅60~80cm、高60~70cmをそれぞれ測る。天井石は調査着手時には4石で構成されていたのを認めているが、石室内掘削のための作業スペースの確保と安全面での配慮から、調査の進捗状況に合わせて順次撤去した。壁体には最大60cm大の石材を



写真4 58-10号墳石室

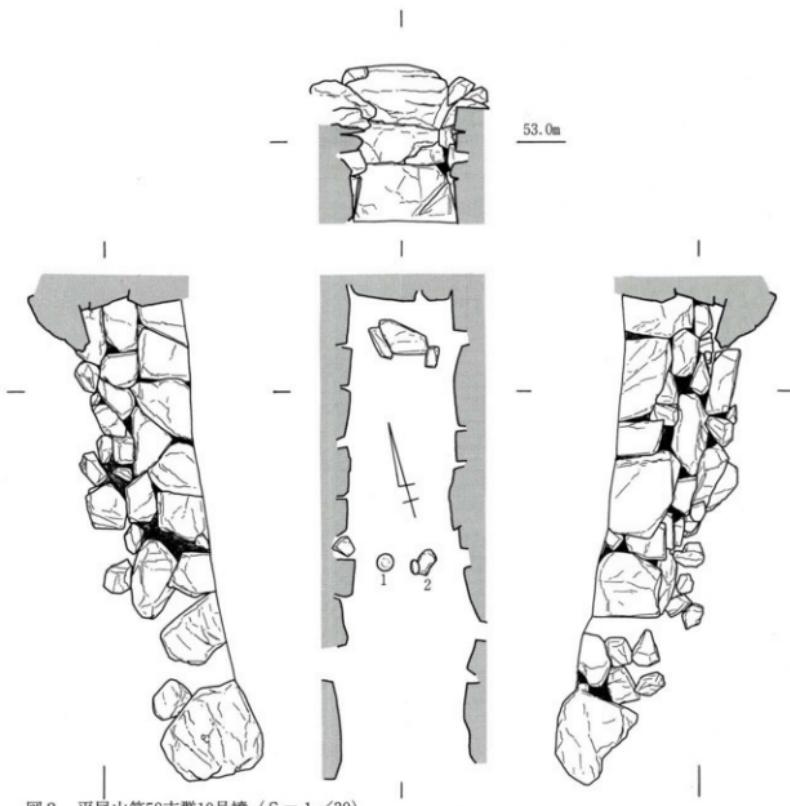


図2 平尾山第58支群10号墳 (S = 1 / 30)

下段に並べた後、20~30cmの石をやや乱雑に載せている。

玄室内には厚さ30~50cmの流入土があった。それを除去し床面を検出すると、玄室内南北両端に棺台状に石が4点遺っていた。疊敷等は認められなかった。床面は30cmの比高をもって南に傾斜している。

石室内流入土除去の際、土器2点を検出した。開口部から奥に130cmのところで2点とも伏せられた状態であった。1は須恵器坏。器高3.9cm、口径8.9cmを測る。外面底部に3条のヘラ記号がある。2は土師器坏。器高3.0cm、口径9.7cmを測る。摩耗のため不明瞭ながら内面には放射状暗文が認められる。

出土土器を本墳の築造時期の参考とするならば、平尾山古墳群内での古墳築造時でも終焉期に近い7世紀中頃に築造されたものと推察される。

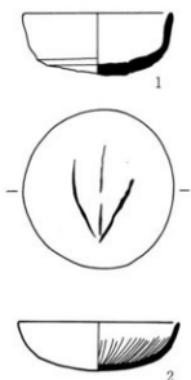


図3 出土土器 (S = 1 / 3)

3. 北側埋葬施設

前述の58-10号墳の墳丘確認のため、石室から北へ向けて長さ6.0m、幅1.0mの調査区を設定し掘削した。その際58-10号墳の北側5.0



写真5 58-10号墳奥壁部

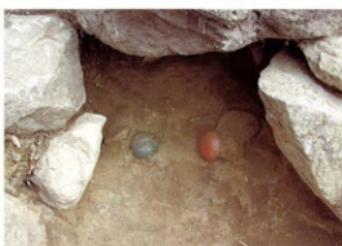


写真6 58-10号墳遺物出土状況



写真7 出土土器



写真8 58-13号墳周辺（南から）

m付近において地山の落ち込みを検出した。

南を除く三方の壁面は花崗岩質の地山を垂直に掘削しており、床面はほぼ水平である。床面の平面規模は長さ250cm前後、幅60cm前後を測る。上部や南壁の状況は把握できなかった。床面の南北両端には植台状に石が5石置かれていた。これらが植台として機能していたなら、長さ210cm前後、幅45cm前後を測る棺が安置されていたと思われる。植台周辺からは釘が集中して出土した。総数19点で完形のもので長さ8.5~11.4cmを測る。頭部を屈曲させるタイプのものである。

この遺構については石材抜き取りの痕跡が全く認められないことから、南に開口する横穴状あるいは土坑状（直葬）の埋葬施設と推察される。しかしながら調査区の幅に遺構が位置的に合致した状況であったため、床面に達するまで埋葬施設という認識を持てないまま掘削することとなり、上部構造等を想定するに足る情報を看取できなかった。調査体制等の事情や偶発的な掘削状況があるにせよ、慎重に対応すべきであったと猛省している。

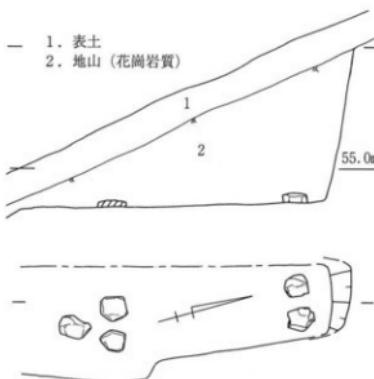


図4 58-13号墳 ($S = 1/40$)



写真9 58-13号墳（南から）



写真10 58-13号墳（南西から）

広義の平尾山古墳群内では過去にも花崗岩質の地山を穿つ横穴が検出されている(『平尾山古墳群 1988年度』1990年3月)。さらに事例が増えるものと考えられ、今後注意を要する遺構である。なおこの遺構については「平尾山古墳群平尾山第58支群13号墳」と呼称することとする。



写真12 出土釘



写真11 58-13号墳(北から)

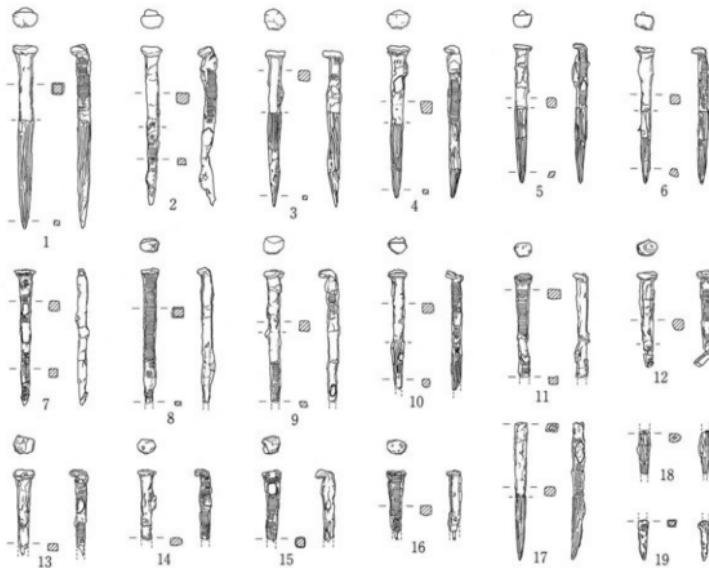


図5 出土釘実測図 (S = 1 / 3)



写真13 調査地遠景（南から）

報告書抄録

ふりがな	かしわらしいせきぐんはくつちょうさがいほう						
書名	柏原市遺跡群発掘調査概報 2001年度						
副書名							
卷次							
シリーズ名	柏原市文化財概報						
シリーズ番号	2001-Ⅲ						
編著者名	石田成年						
編集機関	柏原市教育委員会						
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43 TEL 0729-72-1501 (内5134)						
発行年月日	2002年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ 一 ド 市町村・遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
平尾山古墳群	青谷	27221 H Y K 2001-1	34度 34分 19秒	135度 39分 11秒	20010904 ~ 20010919	4,800	道路拡幅
所 収 遺 跡 名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項		
平尾山古墳群	古墳	古墳	横穴式石室	須恵器、土師器、鉄製品			

柏原市遺跡群発掘調査概報

2001年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1番43号

電話(0729)72-1501 内線5134

発行年月日 2002年3月31日

印 刷 株式会社近畿印刷センター